

新年賀謹



くみあいだより

JAなんぼろ



JA なんぼろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

新年のご挨拶



南幌町農業協同組合
代表理事組合長

林 裕司

新年あけましておめでとうござ
います。

組合員の皆様には輝かしい新春
を、ご家族皆様ご健勝で迎えられ
ましたことと心よりお慶び申し上
げます。

平素より農協事業に対しまし
て、組合員をはじめ、南幌町、各
関係機関よりご支援、ご協力を賜
り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返り見ますと、
元号が平成から令和と改元され、
10月から消費税率が10%に引き上
げられました。また、度重なる大
型台風と大雨が日本列島を襲い、
甚大な被害が生じました。

亡くなられた皆様のご冥福をお
祈り申し上げますとともに、被害
に遭われた皆様には心よりお見舞
い申し上げます。

また、組合員の皆様には、豪雨
および台風に対する救援募金にご

協力いただきましたことに厚くお
礼申し上げます。

昨年の営農にあつては、融雪期
は平年並みとなり、春作業は降雨
も少なく順調に経過しました。7
月の気温は平年並みとなり、寡照
傾向で引き続き少雨だったため、
土壌は乾燥ぎみで生育はやや緩慢
となりましたが、8月に入り降雨
はやや多くなったため、生育に大
きな影響はありませんでした。

9月は降雨も少なく、晴れの日
も多く、暖候期を通じて降水量は
少なく、平均気温はやや高く、日
照時間は多くなりました。

水稲は移植期が平年より1日早
く、分けつは順調で生育も大きく
進みました。前歴期間、冷害危険
期は一時期やや低めの気温に遭遇
しましたが、7月中旬からは平年
並みの気温で経過しました。初期
登熟は7月下旬から8月初旬の高
温による影響が懸念されました
が、その後の降雨とやや低めの気
温で登熟は緩やかに進み、収穫期
は平年並みとなりました。総籾数
は平年よりやや多く、収量は平年
を上回り、品質は良かったものの、
タンパク含有率はやや高い傾向と
なりました。

秋まき小麦は、融雪期が平年よ
り1日遅くなりましたが、起生期
は平年並みとなりました。起生期

以降の好天により生育も順調に進
み出穂期も平年より6日早まりま
した。5月、6月は高温少雨で推
移し、病害虫の発生は比較的少な
く、穂数は平年に比べ少ない傾向
でしたが、一穂粒数は多く、収量、
品質ともに平年を大きく上回る過
去最高の出来秋となりました。

農業情勢については、人口減少
や高齢化の急速な進行に伴う労働
力不足に加え、TPP11、日欧E
PAの発効に加え、日米貿易協定
が異例の速さで発効が予想される
など農業を取り巻く情勢は大きな
変革期を迎えており、生産者は将
来に対する大きな不安を抱いてお
ります。

一方、JAの自己改革を巡る情
勢については、昨年5月までの農
協改革集中推進期間における農水
省の評価・総括が出され「JAグ
ループの自己改革は進展」と評価
したうえで、今後の「農協経営の
持続性」に対する課題が提起され
るとともに、准組合員の事業利用
規制に係る議論については、令和
3年3月までに改革実施状況につ
いて調査を行い、結論を得るもの
とされております。

こうした中、JAグループ北海
道として「改革は自ら行うもの」
との認識に立ち、第29回JA北海
道大会で設定した将来ビジョンで

ある「北海道550万人と共に創
る『力強い農業』と『豊かな魅力
ある農村』の実現」と、「農業所
得の増大と多様な担い手の確保・
育成」と「次代につなげる協同組
合の価値と実践」をJAグループ
が一体となって取組むこととして
おります。

当JAにおいても、第14次農協
事業中期3か年計画「Connect（コ
ネクト）」に掲げる「地域と共に
歩む力強い南幌町農業・農協の実
現」を実践し、農業所得の増大に
向けて生産・販売対策に取り組み、
永続可能な南幌町農業を目指して
事業展開してまいります。

農業・農協を取り巻く環境は激
動しておりますが、南幌町農業、
農協を一層発展させるため、真に
農業者の立場に立ち、時代に即し
た組合員ニーズに対応しながら、
農業協同組合の理念を忘れること
なく、組合員とJAがワンチーム
となって事業展開してまいります
ので、組合員各位のご理解と一層
の結集、ならびに積極的な農協利
用をお願い申し上げます。

迎えた本年がご家族はじめ組合
員皆様が事故なくご健康で過ごさ
れ、災害の無い豊穡の秋を迎えら
れますよう心からご祈念申し上げ
、新年のご挨拶といたします。

令和2年の 年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会

会長

飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様には、輝かしい令和2年の新年を迎えられたものと心より、お慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先に道内各地において強風に見舞われ、広範囲にわたり農業被害が発生し、一部蒔き直しが必要になった地区も発生しました。

その後は干ばつ等もありましたが、天候は順調に推移したことで収穫も進みました。お米の作況指数が104の「やや良」、小麦、てん菜は平年作以上となる結

果となり、生乳は良質な飼料作物確保による安定的な生産が見込まれ、作目によって違いはありますが概ね良い出来秋を迎えることができたと感じております。

しかしながら、全国的には8月末に発生した九州北部豪雨や、9月、10月と東日本を中心に大きな被害をもたらした台風15号、19号など、大規模な災害が発生した年となりました。

北海道においても一昨年、胆振東部地震により多くの支援を頂いた経過にあり、JAグループ北海道として全国連と協力し積極的に支援をして参りたいと考えております。

国際貿易交渉については、昨年2月1日に日EU・EPAが発効となり、日米貿易協定は昨年10月に署名がなされ、国会審議を経て12月4日に承認案が可決されました。日米貿易協定の影響試算では、1、100億円の生産減少額のうち3、4割が北海道への影響とみられており、JAグループ北海道として北海道農業への影響を最小限に食い止める対策や、生産者の不安を払拭することを昨年より国等に対して要請を行っております。今後も

動向を注視し、北海道農業が犠牲とならないよう毅然とした対応を求めてまいります。

さて、JAグループ北海道は、昨年11月12日に第29回JA北海道大会決議事項の実践事例や現状の課題を、JAグループ全体で共有すること、内外に実践状況を発信すること目的として、JA北海道大会実践フォーラムを開催したところで

引き続き、組合員・JA・連合会・中央会が一体となり、大会決議事項の実践に取り組み、基本目標の達成につなげてまいります。

結びになりますが、今年の干支は庚子（かのえね）です。子には、「ふえる・しげる」の意味があり、種子の中に新しい生命がきざし始める状態だといわれています。

今年はこの庚子年にあやかり、農業にとって輝かしい未来が芽生く年となること、併せて北海道農業並びに組合員、役職員の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。

謹賀新年

代表理事組合長

林 裕司

専務理事

高島 茂和

常務理事

辻崎 徹

理事

小谷 恭司

土井 雄治

奈良岡勝利

岩崎 正範

瀬川 徹

織田 章

橋本 寛

代表監事

河村由紀男

常勤監事

小林 信昭

監事

白倉 隆幸

藤本 裕光

新年の挨拶



JA なんぼろ青年部 部長
米田 昌樹

新年明けましておめでとうございます。昨年中は青年部活動に際し、各関係機関の方々並びに組合員の皆様にはご理解とご協力頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

昨年は、雪解けが早く春作業が順調に進み、6月以降も天候に恵まれましたが、干ばつ傾向で不安視されましたが、水稲に関しては比較的好天にも恵まれ、移植、生育と順調に経過し作況指数も104と、昨年より良い作柄であり製品歩留まりも、全銘柄が70%を超える結果となりました。

小麦・大豆に関しても、少雨の影響で大豆の発芽不良など収量不足が懸念されましたが、小麦で町平均約10俵、大豆で約5俵と全体を通して豊作年でありました。

農政においては日米貿易協定の承認案が衆議院で可決、本年1月1日に発効され、空知管内の基幹作物である米に関しては、関税撤廃・削減品目からは除外され当初米国を含んだTPP12レベルで合意した。また2月には日欧経済連携協定も発効されており、我々青年部としても今後、今後の動向を注視し、各関係機関と連携しながら部員一同努力してまいります。

さて、昨年度の活動を振り返りま

すと、なんぼろ冬まつりでのピュアライスの無料配布による米消費拡大PRから始まり、JA夜まつりで南幌産キャベツを使用したオリジナルホットドック販売、収穫感謝祭、ホクレンくるるの杜での南幌産農産物の対面販売を行い、青年部で作成したファームレターを配布し消費者と直にふれあい南幌町の農業のPRを行いました。また、なんぼろ4日クラブ、JA青婦部との交流会等を通して他団体との交流も積極的に行いました。食農教育においては、南幌小学校の5年生を対象とした学習田での稲刈り、くるるの杜で行われている「畑の学校」に参加し、農業経験のない親子と一緒に農作業も行ってきました。くるるの杜での活動をキッカケに、南幌町農業と農産物のPRを町民、町外消費者の方々を対象に「将来の担い手のきっかけ作り・人材育成」を町内の土地を利用した町内食育活動に取り掛かりました。

更に昨年は、青年部創立70周年記念式典があり、多数の出席者にご臨席賜り盛大に開催することができました。70年という長い歴史を時代が大きく変わろうとも数多くの苦労と困難を乗り越え、発展し続けてきていたのだいた諸先輩には心より深く敬意を表します。

その他、視察研修、勉強会の開催を通してそこで得たことを今後の営農に活かしていきたいと思えます。そして我々青年部は「交流」から始まった活動を軸に、あすの担い手を育成できるような食と農の大切さを伝えていきます。

最後になりますが、本年も各関係機関、組合員の皆様方にはご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



JA なんぼろ女性部 部長
城地 美幸

新年明けましておめでとうございます。

日頃より、女性部活動に對し、各関係機関の方々並びに組合員の皆様には、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

女性部活動は、6月に視察研修があり、だて歴史の杜での藍染め体験でした。指導員の方の話で北海道での藍の生産の流れを説明して下さり現在は伊達市で一家のみになってしまったとの事で、貴重な原料でバンダナを染め、一人一人同じ物がなく楽しく仕上げる事ができたと思えます。

食事の後、千歳市のフジッコ(株)で北海道産の豆、昆布などで作ったお惣菜作りの工場を見学、大量の大豆の製造工程はすごいものでした。

夏の収穫感謝祭では、役員さんの協力で野菜の釣り掘りをし、沢山の方にチャレンジして頂きました。毎年野菜を買いに来て下さる消費者の方には感謝して

います。

農作業も落ち着いた11月に、女性部懇談会をユニニの湯で行いました。

製作体験と「JAなんぼろについて学ぼう」と題して、農協の運営、施設、総会の説明など総務課の方にお話しして頂き、大変良かったと思います。

12月には初めて、JA役職員との交流会を開催しました。今回は過去の役員さんたちに協力してもらい、昼食にカレーライスを、サラダを作り、食事をしながら身近な距離で話す事ができました。

食育事業の一環として今月下旬に南幌小学校6年生と餅つき体験を予定しています。農協青年部の協力を頂き、杵と臼での餅つきを皆で楽しみ、つきたてを食べてもらいたいと思います。

2月にはフレッシュミズの体験研修。女性部大会があり、南幌消防の方より救命についての講演、作品作製などを予定しています。

今年度最後の行事になりますので、女性部員、フレッシュミズの皆様にはたくさんの方の参加をお願いいたします。

最後になりますが、今後も私たち女性部は皆様のご協力を仰ぎ力を合せ活動していきたいと思えますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



発行者
JA なんぼろ 青年部
編集責任者 本村 友紀

南幌町農業協同組合青年部

創立70周年記念祝賀会開催

11月30日（土）、南幌温泉ハート&ハートで南幌町農業協同組合青年部創立70周年記念祝賀会が開催されました。

南幌町農業協同組合青年部は昭和24年9月に盟友数80名余りで設立され、将来に安定した農業経営と豊かな食生活に夢と希望を抱き、今日まで活動していきました。

創立60周年から70周年までの10年間には数々の活動が行われました。創立60周年時には、JA青年部活動実績発表大会で堆肥盤事業をテーマに発表し、全国JA青年大会に出場し、その後堆肥盤事業から活動のメインを食農教育活動に移行し、町内外の消費者と交流を図り、南幌町や青年部のPR活動を行ってきました。

当日は、総勢80名で祝賀会が開催され、各方面から来賓の方々が出席し、お祝いの言葉を頂きました。その後は、歴代部長や歴代代表監事らに感謝状の贈呈をおこない、祝宴が開催されました。

今後も、今までの歴史を背負いながら、青年部活動を活発に行い、10年、20年先も継続して青年部という組織を発展させていきたいと思えます。



海外視察研修報告



J A なんぽろ青年部
森口 育民

空知管内青年部海外視察研修に10月27日から11月2日の5泊7日でアメリカ合衆国のカリフォルニア州に行ってきましたので報告させていただきます。

まず、実際に行ってみてのカリフォルニアの印象は、想像していたアメリカの農業像とはだいぶ異なり、乾燥に強いナッツなどの果樹畑が広大に広がる乾燥地の農業でした。乾季と雨季に分かれていて、雨が降るのは冬の11月から2月の間で、農繁期の夏には灌水が欠かせない地帯です。そのため、カリフォルニアの農業地帯を縦断する大きな水路が流れており、農業生産を行う上で水は金（gold）よりも貴重ということでした。

10月28日、最初の視察先は、稲作農家のスパングラ農場です。約400町の水田を、主な従業員は5名、農繁期は9名の季節雇用をして耕作しています。所有トラクターは約20台と20町当たり1台です。雨があまり降らないので、農業機械を収納する大きな格納庫などは見当たらず、大体のものが野ざらしで置いてあったことが印象的です。品種は、短粒

種より草丈が短く十分においしいという理由で中粒種を作付しており、1町当たりモミ重で9.5トンの収量があると言っていました。播種や農薬の散布は、委託先の飛行機で散布してもらい、種は1町当たり150キロ、除草剤は2回、殺菌剤や殺虫剤も何回か撒くとのことでした。落水後1カ月くらいして水分が20%近くになってから収穫。1日24〜28町をコンバイン3台で刈ると言っていました。乾燥施設は、400町全ての米を収穫しても余裕のあるように貯留ビンを建設しており、燃料を使わず外気のみで送風で乾燥させているとのことでした。

昼食後は、ザ・カナリーというアグリフッド（農業を基盤とした住宅コミュニティ）を視察しました。わかりやすく言うと、都市近郊の何もないところにはほとんど立派な新興住宅街があるという感じです。ここに住宅を賣う人は、自然であったり食であったり農業を身近に感じながら暮らしたいという人たちが、新規就農者を支援するNPOが貸農園を行っていたりもしました。この農園で育てられた野菜は有機栽培で、この住宅街に住む人たちが消費者となり買ってくれるということでした。

つぎに農薬、肥料などを飛行機で散布する作業受託会社、ファーム・エア・

フライング・サービスを視察しました。創業は戦後間もない1947年。反当5ドルの作業料金で、飛行機1台で1時間30町散布できるとのことでした。種子や肥料など固形物は高さ12〜18m、液体は高さ2〜3mのところを時速224kmで撒くとのことでした。機体には固形物用のタンクが内蔵されており、1.2トンまでのものを積み込むことができるらしいです。会社の周辺は稲作農家が多く、お客さんのほとんどが稲作農家だと言っていました。

10月29日、トーマソントラクターという、従業員約50人、売り上げ規模カリフォルニア最大のジョンディアの正規代理店を視察しました。日本では考えられないくらい敷地や店舗が広く、店舗内にはたくさんのジョンディアグッズが並べられていました。

この辺りは、果樹の栽培が増えてきて、果樹の管理のためトラクターが今の売れ筋



ということでした。ちなみに230馬力のトラクターは約1600万円で買うことができるらしいです。

午後は、ブドウ、アーモンド等の果樹とトマトを240町、小麦を2000町作付しているラスゴイティファームを視察しました。トマトの収穫は終わっていたのですが、灌水設備を見せてもらいました。広大なトマト畑には水路の水が来ていないため、億単位のお金をかけて灌水設備を整え、1ヶ月の電気代に300万円をかけて灌水しているとのことでした。灌水方法もなるべく水のロスをなくすために、地下30cm位に点滴灌水のチューブを埋めて、そこに水を通していると言っていました。2000町の小麦は、雨水に頼って栽培をしているため、小麦を収穫できるのは5年に1度くらいらしいです。小麦の生育が悪いときは、刈り倒してロールにして、羊農家に餌として売って利益を得ていると言っていました。播種は11月中旬に行うということで、畑をディスクハローで耕起している最中でした。

10月30日、ICT（情報通信技術）の分野で農業に貢献しているオール・ドローン・ソリューションという会社を視察しました。例えば、アーモンドなどの果樹畑を特殊なカメラを付けたドローンで撮

影して、病気に罹っているなどの作物の
状態をマップ化します。農家は畑に行か
なくても、そのマップとGPSを連動さ
せたモニターを見て、広大な畑の中の病
気に罹っている木に従業員を誘導し処置
することが出来る。そのようなサービス
を農家に提供しているというものでした。

午後からは、トレーダージョーズとい
うフードストアを視察しました。自社ブ
ランドの商品開発に力を入れていて、こ
だわりの食材を扱うスーパーのうちの
一つだということでした。アメリカのスー
パーでは野菜や果物は量り売りだと思っ
ていましたが、品質や包装は日本のスー
パーのものと同様感じでした。

11月1日、ロサンゼルス有名なビー
チ沿いにあるファーマーズマーケットを
視察しました。ロサンゼルスにはファ
ーマーズマーケットがたくさんあり、市民
の10世帯に1世帯は農作物を購入するた
めに利用していると言っていました。日
本の直売所とは異なり、ここで商売を
できる人は生産者とその家族に限られて
いるとのこと。前述のフードストアよ
りも価格設定が少し高い感じがしまし
た。農家と直接話をして調理の仕方や安
全性を聞くことができるので利用する人
が多いらしいです。

午後からは、日系3世で観光型農業施

設を営んでいるタナカファームを視察
しました。12町の畑を借りて、食育、観
光や収穫体験などを行い、学生だけで年
間2万人以上が訪れるというものでした。
行った日は、ハロウィンの最終日にかぼ
ちゃを買いに来る人たちが賑わってい
ました。また、驚いたのはハローキティ
と2年間のキャラクター使用契約を結ん
で集客に繋げているということです。日
本の植物園などのテーマパークよりも
すごいことを、個人農家が経営してい
るという感じでした。

今回の研修を通じて、日本とは全く異
なる環境で、日本の常識とは違う農業を
見ることができました。自分の常識に捉
われないことに、また新しい進展がある
のかもしれない。このような貴重な研
修をすることができたのはご支援など
していただ
いた方々
のおかげ
です。本
当にあり
がとう
ございま
した。



長船技師による営農情報！

★子年（ねずみどし）の水稻作況と米価について



十二支の起源は、古来中国で使われてきた日や月、刻を表したもので、十干と十二支を組み合わせたものが暦（カレンダー）として使われていました。

本年は12支では第一番目に数得られる子年（ねずみどし）です。中国の漢書によると「子」は「ふえる」という意味で、新しい生命が種子の中に萌（きざ）し始める状態を表しているとされます。後に、覚えやすくするために動物の鼠が割り当てられました。

明治21年（1888年）から平成20年（2008）年までの過去11回の子年の水稻作況調査と米1俵の価格推移を下記の表にまとめました。昭和35年以降の子年は作況指数が安定しているのがわかると思います。さて本年はどうなるのか、豊穰の秋を祈願するところです。

表1 子年の水稻作況と生産者価格の推移

西暦（子年）	元号	反収（kg）	作況指数	1俵（60kg）価格	出来事
1888	明治21年	105	63	1円44銭	4月 市制・町村制施行
1900	明治33年	197		3円76銭	伊藤博文、立憲政友会結成
1912	大正1年	201		8円32銭	明治天皇崩御・大正に改元
1924	大正13年	214		15円20銭	阪神甲子園球場完成
1936	昭和11年	240		11円70銭	2.26事件
1948	昭和23年	284		2,080円	NHKのど自慢始まる
1960	昭和35年	401	119	4,162円	ベトナム戦争（～1975）
1972	昭和47年	500	121	8,954円	札幌オリンピック
1984	昭和59年	551	114	18,668円	風の谷のナウシカ封切
1996	平成8年	512	101	16,392円	豊浜トンネル事故
2008	平成20年	565	106	12,690円	リーマンショック

注1：北海道の水稻作付面積と反収の推移・作況指数から抜粋作成

注2：米価の推移（政府買入価格 明治21年～平成8年）

注3：農産物品目別年次別平均販売価格（平成20年）、政府統計総合窓口から引用

活動の成果を報告

12月5日（木）、JA3階大会議室で南幌町4
Hクラブ活動報告会が開催されました。

活動報告では、畑作班より「コムギなまぐさ
黒穂病について」と題し4Hクラブ員が考える
コムギなまぐさ黒穂病の発生原因や対策につい
て発表されました。

次に、「小麦ゼミナールの結果」と題し、4H
クラブ員のほ場を比較しながら今年の小麦の生
育結果が報告されました。

最後に、開発肥料株式会社より「けい酸加里
について」の講演が行われました。



女性部短信

◆酢料理講習会開催

11月22日（金）、保険福祉総合センター
あいくる調理実習室にて女性部対象の
「エコープ酢料理講習会」が開催されま
した。当日は、女性部員19名が参加し、講
師を、エコープ酢の製造元、大興産業株
から招き行われました。始めに、お酢の基
礎知識について説明していただき、お酢が
もたらす効果やお酢を使用した料理など
が紹介されました。

その後、料理講習会が行われ、お酢を使っ
た料理として「さば缶そぼろちらし寿司、
ブルーベリーのサワーミルク、鶏むね肉の
梅照り焼き、せん切り野菜のたらこマヨ和
え、長いもそうめんのすまし汁」の5品を
作りました。各班ごとに役割分担し、協
力して作った料理はどれも簡単に作るこ
とができ、さらにお酢が入っていることで
あっさりとした食味がよく、とても美味しく出
来上がりました。

今回の酢料理講習会ではお酢の性質や
特徴、また、料理についても学べ、大満足
で終わることができました。



JA教育ローン

キャンペーン期間：2020年4月30日まで



キャンペーン金利

年1.40%~年2.00%

保証料込(変動金利型)

JA教育ローンの店頭基準金利

変動金利型 年2.90% (令和元年8月23日現在)

①~④から2項目該当で適用!

- ①出資加入 ②JA カードローン契約
③給与・年金振込 ④JA 一体型カード

※該当しない場合(保証料込)
年2.00%~2.80%



新入学生はさらにお得!

金利 年 1.20%~1.80%

【申し込み概要】

<ご利用いただける方>

- お借入時の年齢が20歳以上で、完済時の年齢が80歳未満の方。
- 安定継続した収入のある方。
- JAが指定する保証機関の保証を受けられる方。
- その他JAの定める条件を満たしている方。

<お使い道>

- 入学金・授業料の他に施設費など、学校へ納入する資金および就学のためのアパート等入居費用、他者ローン借換等にご利用いただけます。

<ご融資金額>

- 10万円以上1,000万円以内(所要金額の範囲内)1万円単位

<ご融資期間>

- 6カ月以上16年6カ月以内(但し、在学期間+10年6ヶ月)

<ご返済方法>

- 元利均等返済(月払方式またはボーナス月増額返済併用方式)

<担保・保証>

- 保証：当JAが指定する保証機関の保証をご利用いただきます。

※担保で保全が図れ、保証機関を利用しない方は1.00%~1.80%の金利となります。

<ご用意いただく書類>

- 1 本人確認書類(運転免許証または健康保険証)
- 2 所得証明書(給与所得の方は、源泉徴収票または住民税決定通知書で可)
- 3 合格通知書・学生証(写し)などの在学確認書類
- 4 納付通知書など所要金額が分かる書類等
- 5 ご印鑑
- 6 その他JAが必要とする書類

※店頭にて返済額の試算を承っております。お気軽にご相談下さい。

※在学期間+6ヶ月の範囲で元金の支払を据置くことが出来ます。

※審査の結果、ローン利用のご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。



キャンペーン 実施中!!

※変動金利の表示金利はお借入当初に適用されるものです。適用金利は年2回見直しさせていただきます。

※金利は情勢の変化により見直しさせていただきますことがあります。

JAバンクなんぼる

TEL: 011-378-1891(直通)

TEL: 011-378-2221(代表)

「JAとのお取引はこれから」というお客様もお気軽にどうぞ(ご利用に関しては、組合員加入のための出資が必要となる場合がございます)。

理事会報告

12月6日

12月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議案】

1、規程の改正について

【報告事項】

1、第7回 営農振興組合長会議の開催結果について

2、令和元年度 経営所得安定対策交付額の経過報告について

3、令和元年度 秋の経営懇談会の開催内容について

4、11月末 農産物保管状況について

5、11月末 蔬菜販売状況について

6、11月期 J Aローンの貸付について

7、内部監査の実施報告について

8、令和3年度 職員採用計画について

9、永年勤続表彰と記念品について

10、南幌町新年交礼会の開催について

11、反社会的勢力との取引排除に係る対応状況について

～表紙の紹介～

◎今月号の表紙は、当JA役職員の年男・年女の5名に表紙を飾っていただきました。

前左から

高島 茂和 専務
小田原奈美 係

後左から

本間 雄斗 係長
和田 貴裕 課長
樋口 和也 主任



今年もよろしくお願ひいたします！

編集後記

・新年あけましておめでとございます。本年もよろしくお願ひいたします。年末年始は豪華な食事が多く、つい食べ過ぎてしまいますよね。ですが、平井は昨年よりジムに通い始めましたので年明けも引き締まった体になっています。

くみあいだより担当の平井は来年の干支の「ねずみ」を描きました。



私達のJA

令和元年11月末日現在

組合員	2,769名
(前年同期比)	▲37名
正組合員	453名
(前年同期比)	▲14名
准組合員	2,316名
(前年同期比)	▲23名
正組合員戸数	291戸
(前年同期比)	▲8戸